

「コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム」災害メンタルケア実習を実施しました (2023/8/26)

テーマ：米国版サイコロジカル・ファーストエイド（PFA）

場 所：東北大学災害科学国際研究所（宮城県仙台市）

2023年8月26日（土）、宮城県仙台市の東北大学災害科学国際研究所において、「コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム」災害メンタルケア実習が実施されました。プログラム履修生8名（医療従事者、保健所職員など）が研修を受講しました。実習コーディネーターを務める佐々木宏之准教授（災害医療国際協力学分野）が会場責任者として運営にあたりました。

講師に兵庫県こころのケアセンター大澤智子氏（上席研究主幹、PFA/SPR 認定トレーナー、臨床心理士）をお招きし、米国版 PFA の 5 つの原理原則、被災者への接し方、解決すべき課題等について学びました。PFA とは、災害やテロの直後に子ども、思春期の人、大人、家族に対して行うことのできる効果の知られた心理的支援の方法を、必要な部分だけ取り出して使えるように構成したものです。被災地への早期介入時には「①安全・安心、②落ち着き、③つながり、④自己・地域の効力感（課題に直面したときに実行できる、と感じること）、⑤希望」の原理原則がとても重要であり、「被災者が『①安全・安心』『②落ち着き』を保っているか、そうでないなら原因を追求し環境調整を行うこと、また被災者自身ができることを自らできるように環境調整を行うこと」が支援者の仕事である、と大澤氏は力説しました。さらに「③つながり」について、人・もの・情報などとのつながりが①②の実現を可能にし、誰かと食事・コミュニケーションをとることも大切で、孤食の継続はうつ病の発症を助長する、という研究についてもご紹介頂きました。

PFA を作成している団体は、WHO をはじめ 50 以上あるそうです。今回は米国国立 PTSD センターなどが作成した米国版の PFA を学びました。WHO 版などに比べ、支援者が配慮すべき項目をより具体的に明示した内容となっており、プログラム履修生が被災地支援に入った際にもすぐに活用できる、より実践的な内容の PFA プログラムとなっていました。



兵庫県こころのケアセンター
大澤智子氏



被災者の抱える精神的・身体的課題
についてグループで討議する



早期介入時の5つの原理原則



実習全景